

週足



長期概況

2022年3月のFOMCで米利上げが開始後、2022年10月には151.94円まで上昇しましたが、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由に2023年1月に127.22円まで下落しました。ただ、日米金利差を背景としたドル買いは根強く、2023年11月には151.91円まで値を戻し、その後、2023年末にかけて、日銀による金融政策変更観測や米早期利下げの思惑により140.25円まで下落しました。

2024年に入り、3月の日銀会合で利上げ(17年ぶり)が決定されたものの、緩和的な金融政策は維持されるとの見方からドル買いが活発化し、4月には160.01円まで上昇しました。160円突破により政府・日銀による円買い介入が実施され、152円割れまで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売り圧力により、7月には1986年12月以来の161.95円まで上昇。その後、再び円買い介入が実施されたことや、日銀7月会合で政策金利を0.25%(16年ぶり)へ修正、米金利早期利下げ観測の再燃により、8/5に141.70円まで急落、9月半ばには139.59円まで続落しました。

2024年末にかけて、米国の利下げペース鈍化や、日銀の金融政策維持を理由に再びドル買い優勢となり158円台を回復しましたが、2025年に入り、トランプ米政権による関税政策が世界経済に悪影響を与えるとの懸念や、日銀3月会合での追加利上げの思惑により再び円買いが活発化し、140円割れまで下落しました。

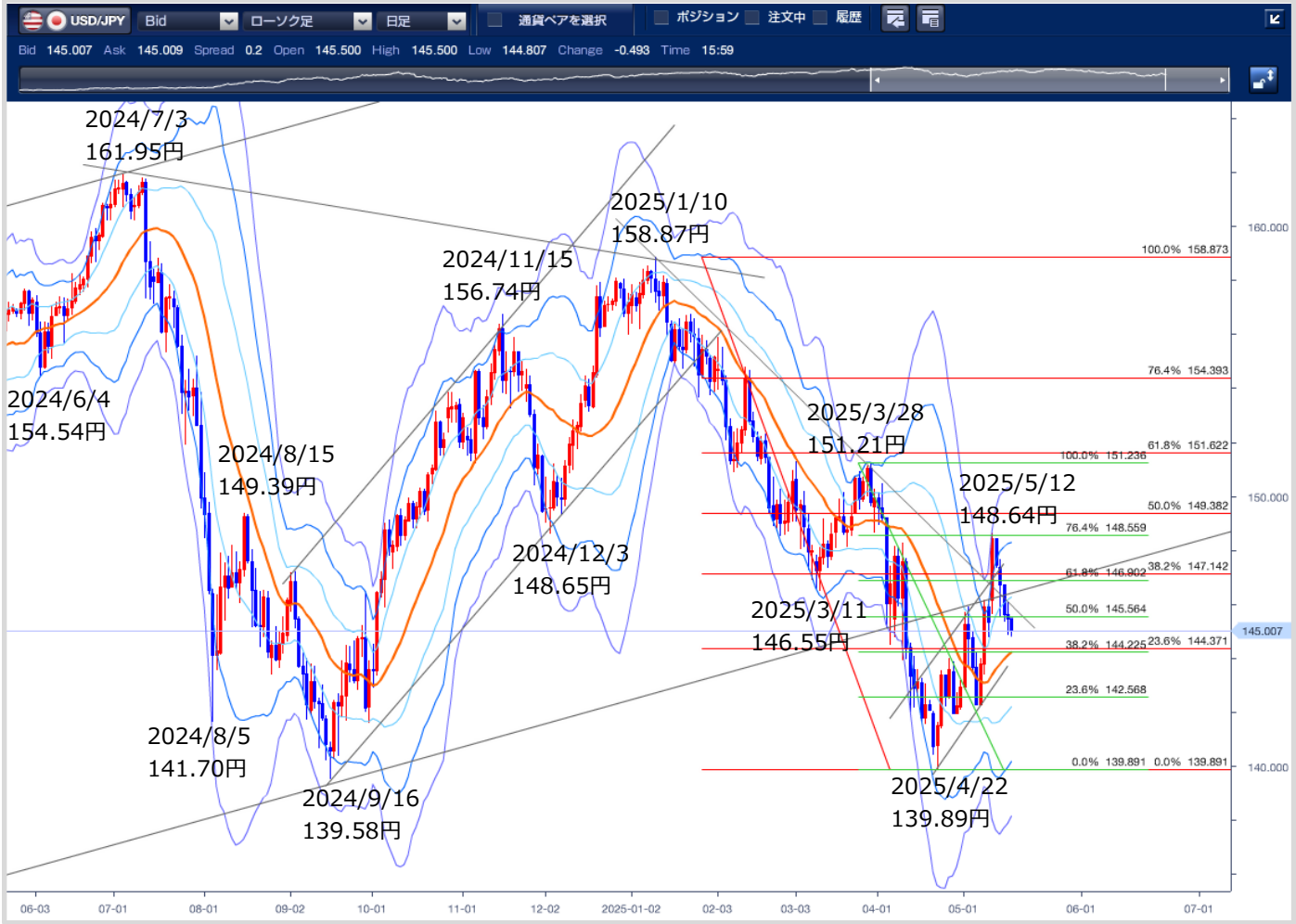
【2025/5/12～5/16】

5月第3週のドル円は、146.16円から始まり、148.64円まで上昇後、週を通して軟調に推移し、144.93円まで下落しました。

米国と中国との貿易協議で、関税率を一定期間引き下げることで合意したことを受け、米中貿易戦争激化に対する懸念が後退し、リスク選好のドル買い円売りが優勢となり、148.64円まで上昇しました。翌13日、米4月消費者物価指数(予想0.3% 結果0.2%)の市場予想を下回る弱い結果だったことを受け、147.38円まで下落。その後も軟調に推移し、14日には、米韓高官が為替について協議したとの報道を受けて、来週に控える日米貿易交渉での円安は正議論の思惑からドル売り円買いが優勢となり、145.61円まで下落しました。週末には、米関税措置を巡る日米交渉を来週に控えたリスク回避のドル売り円買いが優勢となり、145円を割り込んで144.93円まで下落しました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が上向きで上昇を示唆しています。
また、週足ボリンジャーバンドは、下向きで下落を示唆しています。
以上のことから、5/19～5/23の週間予想レンジは以下の通りです。

予想レンジ

143.44 ~ 146.75円

注目レート		テクニカル
上値②	146.75	・5/15高値
上値①	146.10	・5/16高値
下値①	144.50	・ボリンジャーバンド週足-1σ近辺
下値②	143.44	・5/8安値

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。